

ヴェリタスⅡ オンライン相談会を実施しました。

文責（ヴェリタス担当 杉原）

以下は、10月26日(水)に実施されたオンライン相談会の様子です。

2年生は、ヴェリタスⅡ（必修科目）で、実験を年間通して行っています。試行錯誤を繰り返すうちに、今後の実験方針が考えられなくなったり、思ったような結果を得ることができなかったり、と、課題が山積します。授業担当者の教員（1クラスにつき2名）が基本的にアドバイスをを行います。私たち高校教員ではわからないことも科学にはいっぱいあります。そんなとき、大学や企業でその専門分野で研究されている方にアドバイスをもらうことができれば、素敵ですよね。今回、東北大学工学部の教授が協力してくださり、2つの班の相談にZOOMを使ってのっていただきました。

生徒たちは緊張していましたが、自分たちの研究の現状を伝え、悩みを伝えていました。大学の先生はとても分かりやすく、的確にアドバイスをしてくれました。相談会后生徒たちは、「やること増えたあ」、「勉強すること増えた、」と言いながら苦笑いをしつつも、自分たちの実験に少しの光が見えた表情をしていました。

今回相談に乗っていただけたのは、先月（9月28日）日本金属学会で発表を頑張ってくれた3年生の生徒のお陰でもあります。日本金属学会事務局様から、東北大の金属・材質系のご専門の先生の協力をいただける運びとなりました。今回のような機会を、今後SSHの活動の一環として拡充していきたいと考えています。



(左上)

『竹抽出液含有抗酸化物質を利用した錆止め剤の開発』をテーマに、竹から得たエキスを鉄片にひたすら擦り付けて付着させようとしているが、なかなかうまくいかず、途方に暮れていた班

(右)

『電導ガラスを用いた色素増感電池の開発』をテーマに、色素をガラスに付着させるもなかなかうまくいかず途方に暮れていた班



どちらの班も普通の授業でよく頑張ってくれています。今回のアドバイスを受け、一つ上のレベルを目指せるのではないのでしょうか。

この2班の他にも、電通大の先生や、東京農大の先生と連絡をとってアドバイスをいただいている班もあります。多くの皆様にサポートしていただけるのは、厚高生が普段から一生懸命頑張ってくれているからだと思います。今回も東北大学の先生から「非常にしっかりとした生徒さんたちで」と褒めていただきました。